



AIナラティブガイド(PWA)

2024.07 起案
2024.09 技術仕様起案 / 2024.11 技術仕様検討 / 2025.09 仕様変更提案

2024.03 全体事業計画起案 / 2026.03 Ver0.5

 ことほむ



■ 事業コンセプト

エッジAI 文化観光ガイドPWAを核とした、リアル（NFC）連動型の地域創生観光DXプラットフォーム

- インフラ分離型のB to B to Cモデル
- システム維持は必要なく、現地の物理タッチポイント（NFC）のみを管理・販売する

1. 行政が予算化しやすい「システム保守費ゼロ」の建付け

- ・ 観光協会やDMOは、システム開発やサーバー維持のリソースが不要。
現地の看板や案内板にNFCステッカーを貼る、観光案内所の窓口でカードを売る等「物理インフラの整備」だけで事業化が可能。

2. 限界費用を限りなくゼロにするスケール

- ・ 推論計算は100%スマホ端末で行われるため、利用ユーザーが増えても、サーバLLM (AI) のコストは一切かかりません。

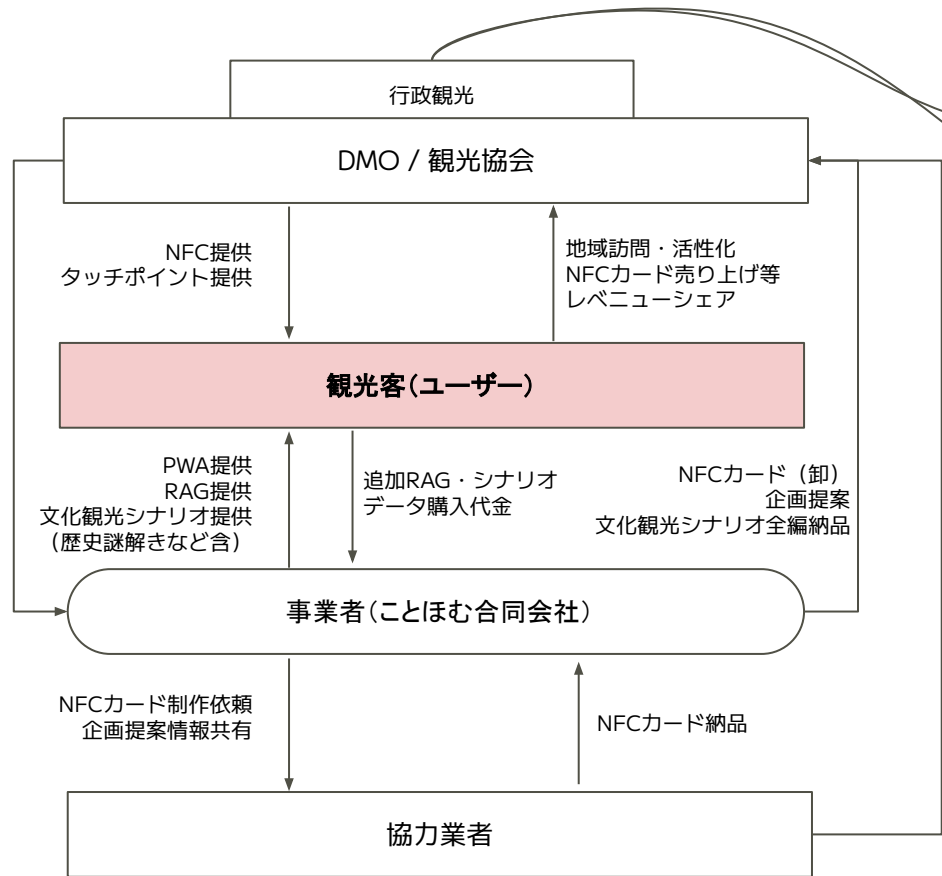
3. 「スマホ完結」×「観光業者向けリアルアセット (NFC) 」のハイブリッド

- ・ 観光案内所やDMOが「自らの商品」として3,000円~5,000円のコンテンツ入りNFCカードを現地販売することで、地域に直接キャッシュが落ちる仕組みです。

ステークホルダー別の役割とメリット

ステークホルダー	主な役割（タスク）	導入・参画のメリット
ことほむ合同会社 （事業主体）	専門的な歴史・文化コンテンツの調査 RAGおよびシナリオ作成 PWAアプリおよびRAGエンジンの開発・運用 NFCデータ管理	<ul style="list-style-type: none">● 埋もれがちな歴史・文化調査で死蔵されているコンテンツの活用● 歴史遺産領域の知識を習得した学士・修士ネットワークの活用● 調査資料の二次利用
観光協会・DMO （インフラ担い手）	観光案内所等でのNFCカードの販売 ガイドポイントへのNFCステッカー配置 AIガイド事業化	<ul style="list-style-type: none">● システム維持費・運用の必要性無し● ガイド観光の人材不足解消● 現地窓口の物販収入、地域周遊の活性化● 行政事業化、継続予算確保がしやすい
観光客 （ユーザー）	NFCによる簡易な操作によるアプリ起動 ディープな文化情報ガイドを楽しむ	<ul style="list-style-type: none">● アプリDL不要、かざすだけで即起動● 通信がシビアな場所（山奥の史跡等）でも動作可能● ハルシネーションのない超高精度な歴史探索
協力企業	タッチポイントのリッチ化 コラボレート企画のプラットフォーム利用	<ul style="list-style-type: none">● タッチポイントのデジタルサイネージ化や立ちパネル等の組み合わせによるイベントステーション化など

ビジネスモデルマップ



文化観光 ガイド資源調査依頼



運用 / NFCカードの配付・販売
NFCタッチポイントステッカーの管理

コラボ企画提案等





画面はイメージです

タッチポイントとなる場所に NFCを埋め込んだステッカーを貼ることで、その場の説明を AIが解説し、謎のヒントを出してくれる。

RAGデータのダウンロードとセーブデータの管理に NFCカードを利用。IDやパスワードの設定が不要。

AIに聞かれた「**回答**」を「**RAG**」というデータパッケージにしてダウンロード。同時にAIに演技をさせる「**キャラデータ**」も同梱する事で、アクティビティ感を演出。

タッチポイントのリッチ化。デジタルサイネージや立ちパネルなどとの組み合わせで、アクティビティ要素を演出。タッチポイントステーション化。



尾張の国は、なぜ三英傑を生み出したのか？

なぜ、日本の中心であった「畿内」からではなく、一地方に過ぎなかった「尾張」だったのか？そしてなぜ現代、その同じ地から「トヨタ自動車」という世界的な巨大企業が産声を上げたのか？

これらの謎を紐解くカギは、およそ500年前の戦国時代へと私たちを誘う。

当時、織田信長の父・信秀は、身内の騒乱を収めつつ、尾張の統一へ向けて冷徹なまでに合理的な戦略を進めていた。その中核にあったのが、津島と熱田という「二大商業港」と、その門前町の完全掌握である。彼らが目をつけたのは、武力による支配ではなく、「物流のプラットフォーム」を握ることだった。

さあ、教科書を閉じ、現代に残る古道の痕跡を辿る旅へ出かけよう。

たとえば、かつて水運の要衝として栄えた津島神社。その周辺には、かつて全国へ信仰を広め、人々の往来を支配した「御師（おし）」の痕跡が、今も街道の面影として生々しく残っている。

神社に足を踏み入れると、目を引くのは船乗りたちが奉納した水運にまつわる絵馬の数々を探しだせるかもしれない。津島神社は元々「津島天王社」と呼ばれ、京都の八坂神社とも深く結ばれた牛頭天王信仰の総本社。医学なき時代、人々が命を懸けて頼った「疫病除け」の聖地であり、同時にここは、伊勢湾から都へと繋がる水運利権の巨大なコントロールセンターでもあったのだ。

伝統の祭事や本殿の佇まいに触れていると、500年という時の隔たりが奇妙なほど薄れ、当時の熱気が肌に伝わってくる。

信長たちが築き上げた、人・モノ・情報が行き交う最強のサプライチェーン。街道整備の石碑を指先でなぞるとき、私たちは気付くはずだ。彼らが尾張統治に込めた「思想の根底」は、形を変え、今もこの地に流れるモノづくりの遺伝子（DNA）として生き続けていることに。

第六天魔王が変えた「ものづくり王国」の設計図

なぜ、一地方に過ぎなかった尾張から三英傑が昇り、現代のトヨタ自動車へと至る「ものづくり王国」が誕生したのか？

その謎を解くカギは、織田信長が自称した「第六天魔王」という称号の思想的・経済的本質にある。

信長は清洲を起点に、津島や熱田の商業港湾を掌握。牛頭天王信仰をハブとして京都から大坂へ広がる中世の巨大な物流・金融ネットワークを、まるごと国家直轄の自由市場へと組み換えた。現代に置き換えれば、宗教特権（座）を解体して市場を開放する、インフラ・ハイジャックである。

天台密教の思想に端を発し、上・下知我麻神社が古代から内包していた「知恵（Plan）」と「物流（Do）」の双対構造。これこそが尾張の遺伝子（DNA）であり、驚くべきことに、現代のトヨタ生産方式が誇る「自動化」や「ジャスト・イン・タイム」を500年以上前から予見していた、この土地の記憶なのだ。

信長は、既存の宗教勢力が独占していた不当なマージンを排除し、自らが「天部」の最高権威として市場を統御。「他化自在（他者の富を自在に操る）」という魔王のエネルギーを、社寺の囲い込みから開かれたフリーマーケットへと世俗化し、完全に「開放」したのである。

欲界の頂点で他者の富を自在に操る「第六天魔王」の圧倒的な現世支配。信長はその力を、尾張の寺社網から見出していった。

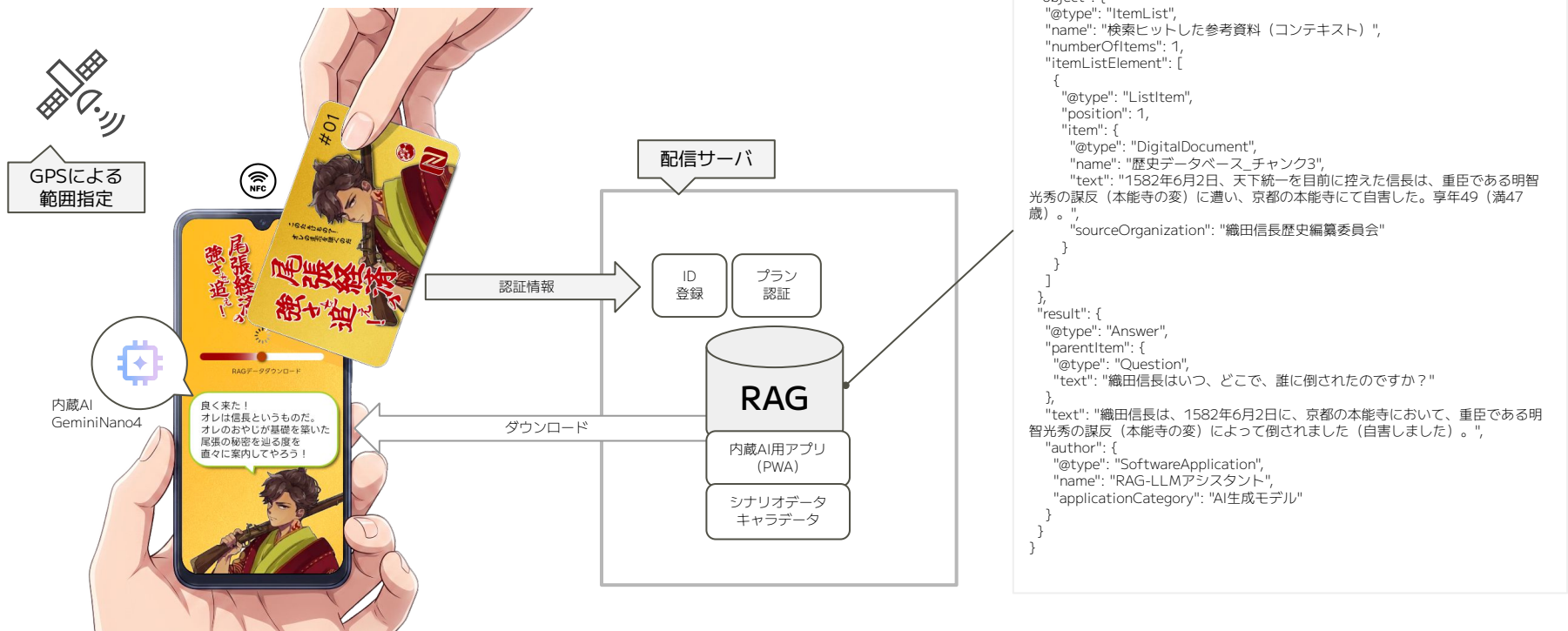
氏神・津島で莫大な資金と情報を握り、聖地・熱田で草薙神剣の武威を宿して信長塀を刻む。上下知我麻の知恵と物流、万松寺の抹香事件、真清田や国府宮の伝統権威、そして国境を固める針綱・大縣の防衛ライン。

この全インフラの掌握こそ、霸王の描いた新世界である。

第六天魔王とは何者だったのか、そして市場の力がいどれほど巨大だったのかを五感で支配する、知的好奇心の旅に出かけよう。

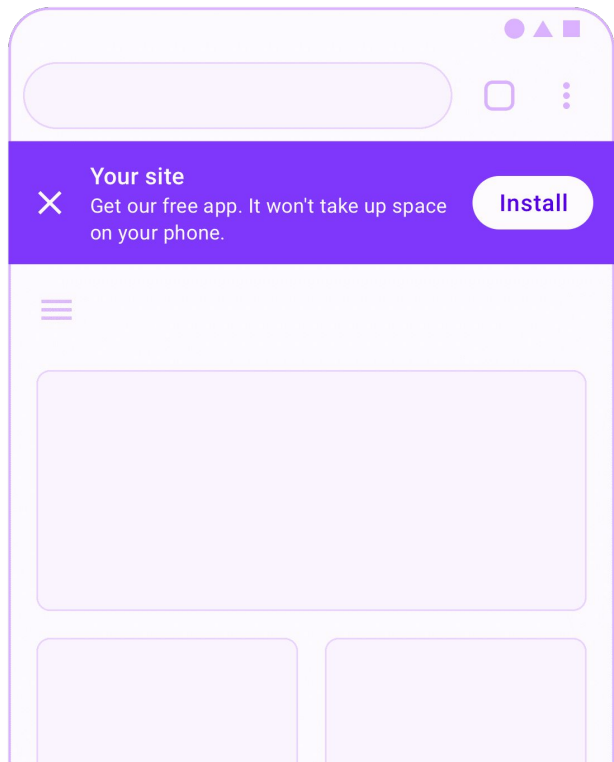
RAG (Retrieval-Augmented Generation)

AIが回答を作成する際に、事前に学習した知識だけでなく、指定された外部の文書やデータベースから関連情報を検索し、その情報に基づいて回答の精度を高める技術。AI特有のハルシネーションを下げる事ができる。



PWA (Progressive Web Apps)

Webサイトをスマートフォンのネイティブアプリのように動作させる技術



ウェブページにアクセスすることで、画面上部などに、PWAのインストールを促すバナーが表示される。インストールをタップするとスマホにアイコンが追加される。一部のデータも同時にダウンロードされる為、オフラインでも利用が可能になる。

検索ゼロクリック時代の標準的なアプローチになると考えられる技術である。

- ・ エッジAI稼働環境の限定
 - ・ Google Pixel9a以上でなければ動かせない。
 - ・ iPhone16以上でなければならない事と、Gemmaを別途ダウンロードさせる必要があり、2026年時点ではiPhoneは除外対象。
(Apple intelligenceの詳細仕様ををウォッチし続ける必要あり)
- ・ NFCステッカーの対候性能
 - ・ 風雨、太陽光線、気温等の影響が未知数
 - ・ メンテナンスの頻度とNFCデータ破損率が未知数

※エッジAIについては、提供側の動きに合わせるしかないが、開発速度は速い為、2027~2028年には多くの人がつかえる状況になってくると思われる。

また繋ぎとしてiPhoneのみサーバAIを使う方法もあるが、コストがかかる。



ことほむ合同会社 ©2024-2026
<https://kotohomu.com>